

海藻を持続可能な水産資源として利用するために 暑さに強い海藻を調べる

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産研究・教育機構
	公開日: 2023-04-19
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 村瀬, 昇
	メールアドレス:
URL	所属: 水産研究・教育機構
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/213

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution 4.0 International License.



海藻を持続可能な水産資源 として利用するために

暑さに強い海藻を調べる



生物生産学科
村瀬 昇

研究の目的

海藻は、魚介類の「海のゆりかご」となる藻場を形成したり、ノリやワカメ等のように養殖され食用になったりします。しかし近年、気候変動に伴う海水温の上昇等により、藻場の衰退や構成種の変化、養殖生産量の低下が認められるようになりました。高い海水温環境下での海藻の生育特性を明らかにするために、詳細な温度条件下で培養実験を行っています。

研究の成果

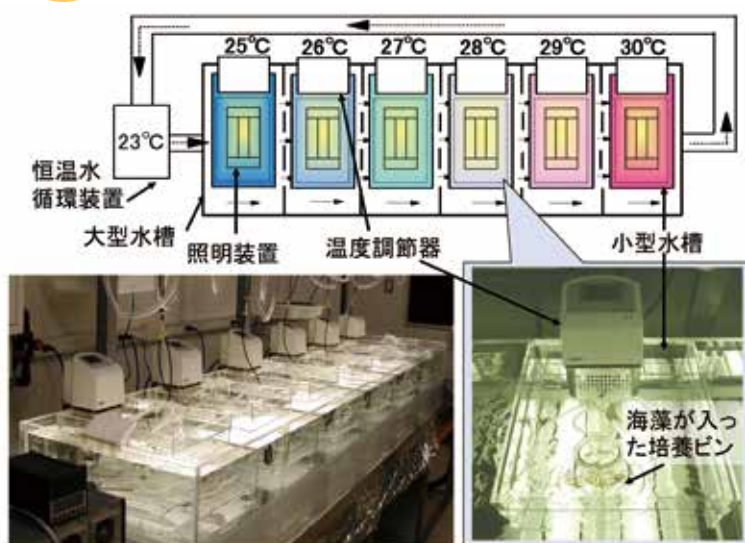


図1 流水式温度勾配培養装置
25～30℃の1℃間隔で温度条件を設定した場合

海藻が生きることができる上限の温度（生育上限温度）を調べるには、1℃間隔で設定できる流水式の培養装置を使います（図1）。これまでの実験によって藻場構成種や養殖対象種の生育上限温度は、海藻の種類によって異なることがわかりました（表1）。これらの知見は、気候変動に対して海藻を持続可能な資源として安定利用するために必要な基礎的な情報となります。

表1 海藻類の生育上限温度

生育上限温度(℃)			
26	27	28	29
養殖ワカメ ¹⁾	アカモク 天然ワカメ ¹⁾	クロメ	アラメ
生育上限温度(℃)			
30	31	32	
マメタワラ ジョロモク	ヤツマタモク ノコギリモク	ヒジキ ²⁾	

¹⁾ https://www.fish-u.ac.jp/kenkyu/sangakukou/kenkyuhoukoku/69/04_1.pdf

²⁾ https://www.fish-u.ac.jp/kenkyu/sangakukou/kenkyuhoukoku/63/04_2.pdf

波及効果

- ・藻場の衰退や構成種の変化の予測に寄与します。
- ・環境変化に対応した海藻養殖の推進に貢献します。